

授業科目名： 教育原論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 望月 ユリオ 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人間の特徴について説明できる。 ・ 子どもの発達の論理および教育の必要性と可能性について説明できる。 ・ 教育という働きかけの特徴と目的について説明できる。 ・ 文化および社会と教育の関係について説明できる。 ・ 地域社会の教育機能・歴史・思想について説明できる。 ・ 家庭の教育機能・歴史・思想について説明できる。 ・ 教師の役割について説明できる。 ・ 近代学校が担った役割について説明できる。 ・ 近代教育学の主な思想について説明できる。 ・ 近代公教育制度・理念の歴史的展開を説明できる。 ・ 現代教育の課題を説明できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>教育の基本的諸概念や教育が果たす役割について多角的に考え、それらが歴史的にいかなる思想や理念によって確立されてきたのかを概説する。その際には、社会・地域・家庭・学校・教師など、教育を構成する諸要素に注目しながら、それぞれが教育においてどのような具体的機能や役割を担っているのか、また、西洋との関係の中で成立していった日本の近代公教育の歴史的展開について講述する。その上で、現代教育の課題を受講者自身に考察させる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：人間とは何か 他の動物との違いを踏まえ、教育の対象としての人間の特質を考える。</p> <p>第2回：人間の発達とその諸相 人間における発達の意味とその理論について理解する。</p> <p>第3回：発達のための多様な働きかけ 「教育」の特徴を教化・形成との関係から考える。</p> <p>第4回：教育の必要性と可能性 発達への助成的介入としての教育の意義と教育者の役割およびその教育思想について理解する。</p> <p>第5回：教育の役割と機能（1） 社会・文化の維持に対する教育の機能について考える。</p> <p>第6回：教育の役割と機能（2） 社会・文化の発展に対する教育の機能について考える。</p> <p>第7回：地域社会と教育との関係 社会と教育・学校の関係とその歴史的変遷について、教育思想を踏まえて理解する。</p>			

<p>第8回：家庭と教育（1）家庭における教育・子育ての歴史と思想を理解する。</p> <p>第9回：家庭と教育（2）家庭教育の意義および学校教育との関係について考える。</p> <p>第10回：子どもの誕生と子どもの権利 子ども観の変遷と子どもの権利に関する理念・思想について理解する。</p> <p>第11回：教師と子どもの関係性 教師の役割と教育的関係について歴史の変遷を踏まえて考える。</p> <p>第12回：近代公教育制度の成立と理念 西洋・日本における近代公教育制度の成立過程とその教育理念・思想について理解する。</p> <p>第13回：近代学校の普及と近代公教育の問い直し 日本における近代学校普及の実態と大正新教育の展開および特質を理解する。</p> <p>第14回：昭和期の教育 昭和前期から戦後昭和期に至るまでの学校教育の変遷や教育課題について理解する。</p> <p>第15回：現代教育における課題の考察 現代社会の教育課題とその解決の方法について、これまでの授業内容を踏まえて考える。</p> <p>学期末試験</p>
<p>テキスト</p> <p>特になし</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>木村元・小玉重夫・船橋一男『教育学をつかむ』有斐閣、2015年。</p> <p>田島一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二著『やさしい教育原理』有斐閣アルマ、2022年。</p> <p>橋本美保・遠座知恵編著『教育の理念と歴史』一藝社、2024年。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>宿題・授業外小レポート40% 期末試験60%</p>

授業科目名： 教育哲学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 田中 智輝 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・教育哲学を学ぶことの意味とその学問的性格を理解する。 ・代表的な教育思想を学び、教育という営為の本質的な意義について理解を深める。 ・教育思想と現在の教育に関する諸課題とを結びつけ、これからの教育のあり方について考える。 			
授業の概要			
代表的な教育思想についての理解を深めるとともに、哲学的な思考や対話を通じて受講生自身が教育的事象について問いを持ち、探究する。			
授業計画			
第1回：イントロダクション、教育哲学とは？			
第2回：西洋教育思想の源流、古典古代の教育思想			
第3回：近代学校の構想（コメニウス）			
第4回：近代的個人の教育可能性1（ロック、ルソー）			
第5回：近代的個人の教育可能性2（カント）			
第6回：近代教育学の成立（ペスタロッチ、フレーベル）			
第7回：科学としての教育学の確立（ヘルバルト）			
第8回：近代公教育制度の成立（コンドルセ、デュルケーム、フンボルト）			
第9回：近世日本の教育思想と近代			
第10回：新教育運動の展開（デューイ）			
第11回：日本における新教育の展開			
第12回：近代教育への批判（アレント、フーコー）			
第13回：脱学校の教育思想（イリイチ）			
第14回：教育哲学研究の現在地			
第15回：総括とまとめ			
テキスト			
指定しない。			
参考書・参考資料等			

今井康雄編『教育思想史』有斐閣 2009年

学生に対する評価

授業内レポート20%および授業外レポート80%を評価対象とする。

授業科目名： 教育原論A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 望月 ユリオ 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人間の特徴について説明できる。 ・ 子どもの発達の論理および教育の必要性と可能性について説明できる。 ・ 教育という働きかけの特徴と目的について説明できる。 ・ 文化および社会と教育の関係について説明できる。 ・ 地域社会の教育機能・歴史・思想について説明できる。 ・ 家庭の教育機能・歴史・思想について説明できる。 ・ 教師の役割について説明できる。 ・ 近代学校が担った役割について説明できる。 ・ 近代教育学の主な思想について説明できる。 ・ 近代公教育制度・理念の歴史的展開を説明できる。 ・ 現代教育の課題を説明できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>教育の基本的諸概念や教育が果たす役割について多角的に考え、それらが歴史的にいかなる思想や理念によって確立されてきたのかを概説する。その際には、社会・地域・家庭・学校・教師など、教育を構成する諸要素に注目しながら、それぞれが教育においてどのような具体的な機能や役割を担っているのか、また、西洋との関係の中で成立していった日本の近代公教育の歴史的展開について講述する。その上で、現代教育の課題を受講者自身に考察させる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：人間とは何か 他の動物との違いを踏まえ、教育の対象としての人間の特質を考える。</p> <p>第2回：人間の発達とその諸相 人間における発達の意味とその理論について理解する。</p> <p>第3回：発達のための多様な働きかけ 「教育」の特徴を教化・形成との関係から考える。</p> <p>第4回：教育の必要性と可能性 発達への助成的介入としての教育の意義と教育者の役割およびその教育思想について理解する。</p> <p>第5回：教育の役割と機能（1） 社会・文化の維持に対する教育の機能について考える。</p> <p>第6回：教育の役割と機能（2） 社会・文化の発展に対する教育の機能について考える。</p> <p>第7回：地域社会と教育との関係 社会と教育・学校の関係とその歴史的変遷について、教育思想を踏まえて理解する。</p>			

<p>第8回：家庭と教育（1）家庭における教育・子育ての歴史と思想を理解する。</p> <p>第9回：家庭と教育（2）家庭教育の意義および学校教育との関係について考える。</p> <p>第10回：子どもの誕生と子どもの権利 子ども観の変遷と子どもの権利に関する理念・思想について理解する。</p> <p>第11回：教師と子どもの関係性 教師の役割と教育的関係について歴史の変遷を踏まえて考える。</p> <p>第12回：近代公教育制度の成立と理念 西洋・日本における近代公教育制度の成立過程とその教育理念・思想について理解する。</p> <p>第13回：近代学校の普及と近代公教育の問い直し 日本における近代学校普及の実態と大正新教育の展開および特質を理解する。</p> <p>第14回：昭和期の教育 昭和前期から戦後昭和期に至るまでの学校教育の変遷や教育課題について理解する。</p> <p>第15回：現代教育における課題の考察 現代社会の教育課題とその解決の方法について、これまでの授業内容を踏まえて考える。</p> <p>学期末試験</p>
<p>テキスト</p> <p>特になし</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>木村元・小玉重夫・船橋一男『教育学をつかむ』有斐閣、2015年。</p> <p>田島一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二著『やさしい教育原理』有斐閣アルマ、2022年。</p> <p>橋本美保・遠座知恵編著『教育の理念と歴史』一藝社、2024年。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>宿題・授業外小レポート40% 期末試験60%</p>

授業科目名： 教育の思想と歴史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 望月 ユリオ 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>西洋と日本の教育の歴史的展開を学ぶことを通じて、教育に関わる理念や思想についての基礎的知識を身につけるとともに、西洋および日本における教育の歴史的な特徴や性格を考えることが出来る。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>西洋および日本を事例に、原始・古代から近代における教育の歴史的展開を概観しつつ、その過程で社会、国家、家族、学校、子どもなどとの関わりの中で、いかなる教育思想や理念がみられてきたのかについて概説する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：原始時代における人間形成</p> <p>第2回：古代における教育と学校の誕生</p> <p>第3回：近代における教育関心の高まりと一般教育の探求</p> <p>第4回：子どもの学びにおける経験の意味</p> <p>第5回：子ども観の歴史的変遷—ルソーを中心に—</p> <p>第6回：近代教授法の模索</p> <p>第7回：教師の役割と教育学の成立—ヘルバルトとヘルバルト主義—</p> <p>第8回：児童中心主義の教育改革—個と社会をめぐる試み—</p> <p>第9回：近世における学び（1）—庶民の学習文化・子育て文化—</p> <p>第10回：近世における学び（2）—武士のための教育機関—</p> <p>第11回：近代公教育の理念と思想</p> <p>第12回：日本における近代公教育制度の成立と学校の普及</p> <p>第13回：近代教育の問い直し—大正新教育運動の展開—</p> <p>第14回：昭和戦前期の教育と戦後教育改革</p> <p>第15回：現代的教育課題の歴史的考察</p> <p>学期末試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>橋本美保・遠座知恵『教育の理念と歴史』一藝社、2024年。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p>			

勝山吉章編著『西洋の教育の歴史を知る—子どもと教師と学校をみつめて—』現場と結ぶ教職シリーズ3、あいり出版、2019年。

三好信浩編『日本教育史』教職科学講座第2巻、福村出版、1993年。

学生に対する評価

授業中外で課す小レポートおよび学期末試験により評価する。

これらを通じて、授業内で扱う教育に関する基礎的概念や知識の理解度を確認するとともに、西洋または日本の教育に対する受講者自身の考察の内容を評価する。

授業科目名： 教職概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 生島亜樹子 担当形態：単独
科目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 教職の意義と教師の職務と求められる資質能力について理解し、教職への適性の自己評価・相互評価をとおして意欲を高め、進路選択への見通しをもつことができる。			
授業の概要 本授業では、グループワークやディスカッションによる方法を中心に、教職の意義や教員の役割や職務内容に関する実践上の課題を検討することとおして、教職の在り方について理解する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 授業計画等の説明、大学での学び			
第2回：現在の学校のすがたを知る（チーム学校・地域との連携協働）			
第3回：学校教育の基礎的・基本的事項（教育政策の理解）			
第4回：教職ライフを描く① 学校現場の状況・子どもの見方			
第5回：教職ライフを描く② 生徒から教師への視点の転換			
第6回：教職ライフを描く③ 現職教師のキャリア形成を知る（小学校）（教員研修の意義及び制度上の位置づけ、服務上・身分上の義務及び身分保障を含む）			
第7回：教職ライフを描く④ 現職教師のキャリア形成を知る（中学校）（教員研修の意義及び制度上の位置づけ、服務上・身分上の義務及び身分保障を含む）			
第8回：教職ライフを描く⑤ 現職教師のキャリア形成を知る（高等学校・幼稚園・特別支援学校）（教員研修の意義及び制度上の位置づけ、服務上・身分上の義務及び身分保障を含む）			
第9回：教職ライフを描く⑥ 座談会で学んだことをポンチ絵にして発表			
第10回：教職ライフを描く⑦ 教師に求められる資質能力			
第11回：学生ライフを描く 履修カルテ・学びのロードマップの作成			
第12回：現代的課題を知る① 生徒指導上の課題・教師に求められる情報モラル			
第13回：現代的課題を知る② 学力向上の取組			
第14回：現代的課題を知る③ 自主的な学びの場としてのちゃぶ台プログラム			
第15回：授業内容のふりかえり			
定期試験			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 教育小六法、小学校学習指導要領「総則編」			
学生に対する評価 定期試験（50%）および授業への参加度（50%）			

授業科目名： 教職概論A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 生寫亜樹子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 教職の意義と教師の職務と求められる資質能力について理解し、教職への適性の自己評価・相互評価をとおして意欲を高め、進路選択への見通しをもつことができる。			
授業の概要 本授業では、グループワークやディスカッションによる方法を中心に、教職の意義や教員の役割や職務内容に関する実践上の課題を検討することをとおして、教職の在り方について理解する。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション 教職の魅力と教師への道について			
第2回：学校教育の変化を知る(1) 児童・生徒の学びの変容について			
第3回：学校教育の変化を知る(2) 教育の制度や学校の変化について			
第4回：教師の職務を知る(1) 教科指導について（学習指導要領、カリキュラムマネジメント）			
第5回：教師の職務を知る(2) 生徒指導について（生徒指導提要、カウンセリング）			
第6回：教師の職務を知る(3) 学校経営について（校務分掌、リーダーシップ、チーム学校）			
第7回：教師の職務を知る(4) 教員研修について（教員免許、教師の学び）			
第8回：教師の職務を知る(5) 服務上・身分上の義務について			
第9回：めざす教師像を具体化する(1) 求められる資質・能力とは			
第10回：めざす教師像を具体化する(2) グループワークをとおした検討①			
第11回：めざす教師像を具体化する(3) グループワークをとおした検討②			
第12回：めざす教師像を具体化する(4) グループワークをとおした検討③			
第13回：教師への道をえがく(1) 教員養成と教員採用の動向			
第14回：教師への道をえがく(2) グループワークをとおした検討①			
第15回：教師への道をえがく(3) グループワークをとおした検討②			
定期試験			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 教育小六法、中学校学習指導要領「総則編」			
学生に対する評価			
定期試験（中間・期末試験） 50%			
小テスト・授業内レポート 20%			
宿題・授業外レポート 20%			
受講者の発表（プレゼン）・授業内での制作作品 10%			

授業科目名： 教育社会学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 原田 拓馬
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
現代社会における教育及び学校教育問題に関する基礎的事項について、教育社会学的視点から知識を身に付け、それらに関連する課題を理解・研究する方法を習得する。なお、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識の修得も含む。			
授業の概要			
教育社会学的視点から、まずは子どもの社会的発達及び人間関係への関心に基づいて教師の指導を多角的に理解します（学校安全への対応を含む）。その上で諸外国及び日本の教育政策の動向を学び、さらに学校と地域の連携、学校の社会的・制度的・経営的な面に焦点を当てていきます。			
授業計画			
第1回：子どもの社会的発達			
第2回：子どもの人間関係：友達関係・いじめ			
第3回：教師の指導①：教育問題と児童生徒指導			
第4回：教師の指導②：学級経営			
第5回：教師の指導③：学校安全・学校事故			
第6回：教育政策①：諸外国の教育政策及び学歴社会の状況			
第7回：教育政策②：日本の教育政策の展開			
第8回：学校と他機関・地域との連携の全体像			
第9回：社会問題と地域連携①：不登校			
第10回：社会問題と地域連携②：児童虐待			
第11回：社会問題と地域連携③：少年非行			
第12回：産学官地域連携を基盤とした学校教育活動			
第13回：学校改革①：学校教育目標・評価			
第14回：学校改革②：学校文化・教員文化			
第15回：学校改革③：リーダーシップ			
定期試験			
テキスト			
なし			

参考書・参考資料等

松岡亮二編『教育論の新常識』中央公論新社（2021）

学生に対する評価

・各回のミニレポート40%と期末試験60%による総合評価

授業科目名： 教育制度	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐々木 司 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、それに対応するための教育制度や政策について諸外国の動向も踏まえつつ理解する。 ・学校経営および教育行政の観点から、学校、地域、家庭等の連携・協働について理解する。 ・教育制度や施策、学校経営に関して、現状や課題等を踏まえつつ提案できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>教育問題、社会問題等を仕組みや構造、システムの視点から考察をし、教員に必要な社会的、制度的、経営的理解を深める。映像教材の視聴を含む聴講をもとに、ディスカッションやグループプレゼンテーションを通い、受講生は教育制度や仕組みに関して自分なりの提案を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、教育制度をどう理解するか、実例に基づいて紹介する。</p> <p>第2回：現代社会と学校制度1 近代の学校の始まりがもつ意味を検討する。</p> <p>第3回：現代社会と学校制度2 学校がもつ社会化と選抜の機能を検討する。</p> <p>第4回：現代社会と学校制度3 学歴の属性化という問題を検討する。</p> <p>第5回：学級という制度1 学校の一斉性と個別性を検討する。</p> <p>第6回：学級という制度2 単線型学校体系における隠れた系統性を検討する。</p> <p>第7回：中間レポートについて講評 中間レポートの内容</p> <p>第8回：問われる就学 不登校、ホームスクールなどから、就学問題を検討する。</p> <p>第9回：問われる学校指定 学校選択の問題を検討する。</p> <p>第10回：問われる中立性 学校において教員が求められる政治的・宗教的中立性について検討する。</p> <p>第11回：学校における非公式な制度1 学校内部に存在する非公式な制度について検討する。</p> <p>第12回：学校における非公式な制度2 学校内部に存在する非公式な制度について検討する。</p> <p>第13回：学校安全計画と危機管理のための制度 リスクとハザード、リスクマネジメントのための諸制度</p> <p>第14回：学校と地域の連携 コミュニティスクールの意義、学校協働活動</p>			

第15回：期末レポートに向けて	調査したものをレポートにする際の注意事項
テキスト	使用しない
参考書・参考資料等	岡本徹・佐々木司編著『現代の教育制度と経営』（ミネルヴァ書房）教育六法 その他、授業中に適宜紹介する。
学生に対する評価	中間レポートと期末レポート、その他の課題によって評価する。

授業科目名： 教育法規	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐々木 司
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法制度的仕組みに関する基礎知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解する。 ・公教育の原理及び理念を理解する。 ・公教育制度を構成している教育関係法規を理解する。 ・教育制度を支える教育行政の理念と仕組みを理解する。 ・教育制度をめぐる諸課題について理解し例示できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>日本国憲法、教育基本法、学校教育法、教育公務員特例法、地方公務員法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律など、現行教育法規の要点を学ぶことで、教育関係法規を法体系のなかで構造的に捉え、教育に関する法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を獲得する。あわせて、教育制度をめぐる諸課題について法的・制度的観点から理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：新たな教育法制度の中での教育（1） イントロダクション 教育法規の体系</p> <p>第2回：新たな教育法制度の中での教育（2） 教育基本法の改正</p> <p>第3回：新たな教育法制度の中での教育（3） 公教育の原理</p> <p>第4回：学校教育の制度 学校の歴史と成り立ち、学校体系</p> <p>第5回：学校経営の基礎（1） 目標設定と実現、校務分掌</p> <p>第6回：学校経営の基礎（2） 学校評価、自律的学校経営</p> <p>第7回：教育内容の制度（1） 教育課程の編成基準、学習指導要領の法的性格</p> <p>第8回：教育内容の制度（2） 教科書の検定と採択</p> <p>第9回：教育職員の制度（1） 教育職員の種類と職務</p> <p>第10回：教育職員の制度（2） 教員免許状と任用、研修</p> <p>第11回：教育職員の制度（3） 教育職員の服務、懲戒と分限</p> <p>第12回：教育行政の制度（1） 文部科学省、審議会、教育委員会の役割</p> <p>第13回：教育行政の制度（2） 学校と地域との連携—学校運営協議会等—</p>			

第14回：学校安全の推進に関する計画

第15回：教育法制度の今日的課題　　まとめ

テキスト

岡本徹・佐々木司編著『現代の教育制度と経営』（ミネルヴァ書房）

参考書・参考資料等

教育六法

学生に対する評価

小テストの結果に基づいて評価する。

授業科目名： 教育法規A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：佐々木 司、小 杉 進二 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法制度的仕組みに関する基礎知識を身に付けるとともに、そこに内在する課題を理解する。 ・公教育の原理及び理念を理解する。 ・公教育制度を構成している教育関係法規を理解する。 ・教育制度を支える教育行政の理念と仕組みを理解する。 ・教育制度をめぐる諸課題について理解し例示できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>日本国憲法、教育基本法、学校教育法、教育公務員特例法、地方公務員法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律など、現行教育法規の要点を学ぶことで、教育関係法規を法体系のなかで構造的に捉え、教育に関する法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を獲得する。あわせて、教育制度をめぐる諸課題について法的・制度的観点から理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：新たな教育法制度の中での教育（1） イントロダクション 教育法規の体系 第2回：新たな教育法制度の中での教育（2） 教育基本法の改正 第3回：新たな教育法制度の中での教育（3） 公教育の原理 第4回：学校教育の制度 学校の歴史と成り立ち、学校体系 第5回：学校経営の基礎（1） 目標設定と実現、校務分掌 第6回：学校経営の基礎（2） 学校評価、自律的学校経営 第7回：教育内容の制度（1） 教育課程の編成基準、学習指導要領の法的性格 第8回：教育内容の制度（2） 教科書の検定と採択 第9回：教育職員の制度（1） 教育職員の種類と職務 第10回：教育職員の制度（2） 教員免許状と任用、研修 第11回：教育職員の制度（3） 教育職員の服務、懲戒と分限 第12回：教育行政の制度（1） 文部科学省、審議会、教育委員会の役割 第13回：教育行政の制度（2） 学校と地域との連携</p>			

第14回：教育法制度の今日的課題（1）学校安全への対応

第15回：教育法制度の今日的課題（2）近年の教育行政改革の動向/まとめ

テキスト

岡本徹・佐々木司編著『現代の教育制度と経営』（ミネルヴァ書房）

参考書・参考資料等

教育六法

学生に対する評価

小テストの結果に基づいて評価する。

授業科目名： 社会教育	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：山田 明 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会教育の基礎・基本の理解 2. 社会教育実践の事態と課題の把握 3. 社会教育事例の分析・考察 4. 社会教育方法の理解 5. 社会教育実践力の育成 			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、社会教育の基本的理解から応用的理解を目標に、書籍・文献資料・映像資料等を活用しながら実施する。また学生の学びを深めることを目指しアクティブ・ラーニングを念頭に置き、社会教育の実践力を身につけるためにワークショップ等を取り入れる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：自己診断、オリエンテーション 社会教育に関する意識アンケート、社会教育の概要 第2回：社会教育の現状診断 社会教育の現状と課題 第3回：社会教育史 日本及び世界における社会教育の歴史概要（発祥から現在まで） 第4回：世界の社会教育 事例（ボランティア、米国型サービス・ラーニング） 第5回：日本の社会教育 事例（公民館、コミュニティ・センター） 第6回：社会教育とメディア メディアの社会教育への有効活用 第7回：社会教育とまちづくり ボランティアを活用した地域活性化及びりまちづくり 第8回：学校と社会教育 学校と地域の連携・協働、コミュニティスクール 第9回：社会教育職員、社会教育にかかわる人材（社会教育主事、社会教育指導員） 第10回：社会教育施設の経営（公民館、図書館、博物館、生涯学習センター等） 第11回：社会教育ワークショップⅠ 社会教育事業計画の立案 第12回：社会教育ワークショップⅡ 社会教育事業計画の評価及び改善 第13回：社会教育行政（社会教育事業、社会教育政策） 第14回：社会教育関係職員 社会教育に関わる人材育成 第15回：振り返り、総括</p> <p>最終試験</p> <p>テキスト</p> <p>テキストは使用せず、参考資料を適宜、配布する。</p>			

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

課題についての集団討論及びプレゼンテーション、ワークショップ、最終試験等を総合的に評価する。

※集団討論及びプレゼンテーション30%、ワークショップ20%、最終試験50%

授業科目名： 教育場面の心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 小野 史典 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標 心理学的観点から、教育現場の諸問題を考察することができるようになる			
授業の概要 教育場面では、幼児・児童・生徒の心身の発達過程を外面、内面の両方から理解し、発達過程に応じた教育課題や指導を行う必要があります。この講義では心理学的観点から、教育場面で教師としてとらえるべき心身の発達、学習方略、集団行動、教育評価測定についての基礎理論を理解し、学習活動を支える指導ができるような考え方を理解することを目的とします。			
授業計画 第1回：教育現場の心理学とは 教育に関する心理学でこれまでに報告された研究とそこから導出された理論を概説する 第2回：発達 教育に関する心理学でこれまでに報告された研究とそこから導出された理論を概説する 第3回：学習 教育に関する心理学でこれまでに報告された研究とそこから導出された理論を概説する 第4回：知覚と感覚 教育に関する心理学でこれまでに報告された研究とそこから導出された理論を概説する 第5回：動機 教育に関する心理学でこれまでに報告された研究とそこから導出された理論を概説する 第6回：記憶 教育に関する心理学でこれまでに報告された研究とそこから導出された理論を概説する 第7回：認知 教育に関する心理学でこれまでに報告された研究とそこから導出された理論を概説する 第8回：総括と試験 教育に関する心理学でこれまでに報告された研究とそこから導出された理論を概説する 定期試験			
テキスト 沖林洋平著『大学生と教員のための学校教育心理学』ミネルヴァ書房			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価			

定期試験（中間・期末試験）100%

授業科目名： 教育場面の心理学A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 小野 史典 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標 心理学的観点から、教育現場の諸問題を考察することができるようになる			
授業の概要 教育場面では、幼児・児童・生徒の心身の発達過程を外側、内面の両方から理解し、発達過程に応じた教育課題や指導を行う必要があります。この講義では心理学的観点から、教育場面で教師としてとらえるべき心身の発達、学習方略、集団行動、教育評価測定についての基礎理論を理解し、学習活動を支える指導ができるような考え方を理解することを目的とします。			
授業計画 第1回：教育現場の心理学とは 教育に関する心理学でこれまでに報告された研究とそこから導出された理論を概説する 第2回：発達 教育に関する心理学でこれまでに報告された研究とそこから導出された理論を概説する 第3回：学習 教育に関する心理学でこれまでに報告された研究とそこから導出された理論を概説する 第4回：知覚と感覚 教育に関する心理学でこれまでに報告された研究とそこから導出された理論を概説する 第5回：動機 教育に関する心理学でこれまでに報告された研究とそこから導出された理論を概説する 第6回：記憶 教育に関する心理学でこれまでに報告された研究とそこから導出された理論を概説する 第7回：認知 教育に関する心理学でこれまでに報告された研究とそこから導出された理論を概説する 第8回：総括と試験 教育に関する心理学でこれまでに報告された研究とそこから導出された理論を概説する 定期試験			
テキスト 沖林洋平著『大学生と教員のための学校教育心理学』ミネルヴァ書房			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価 宿題・授業外レポート 100%			

授業科目名： 特別支援教育	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 宮木 秀雄 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」</p> <p>①特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解している。</p> <p>②特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解している。</p> <p>③障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解している。</p> <p>④他者との協議を通して、幼児、児童及び生徒に対する支援を考えることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本科目では、通常の学級にも在籍している発達障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について解説する。その上で、特別の支援を必要とする児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、個別の教育的ニーズに応じた支援方法について検討する。その際、事例検討等演習を通して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識・技能について考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：障害とは 優生思想について考えることを通して「障害」とは何かについて考察する。またICFの障害モデルについても解説する。</p> <p>第2回：特別支援教育の制度 特別支援学校、特別支援学級、通級による指導といった多様な学びの場について、文部科学省の統計資料や学習指導要領、法令等をもとに解説する。</p> <p>第3回：特別支援教育の教育課程と個別の指導計画 様々な障害の特性や教育内容について紹介するとともに、自立活動や教科等を合わせた指導について解説する。また、個別の指導計画と個別の教育支援計画の内容や意義についても解説する。</p> <p>第4回：発達障害のある子どものアセスメント 発達障害のある子どものアセスメントについて、医学、心理、教育の観点から解説する</p> <p>第5回：発達障害のある子どもの行動支援 発達障害のある子どもの行動支援について、具体的な事例を挙げながら解説する。</p>			

第6回：発達障害のある子どもの実際 発達障害のある子どもの実際の事例を取り上げながら、支援方法等について考える。

第7回：発達障害のある子どもの学習支援 発達障害のある子どもの学習支援について、具体的な事例を挙げながら解説する。

第8回：インクルーシブ教育と合理的配慮 インクルーシブ教育と合理的配慮について、文部科学省の報告等をもとに解説する。また、貧困や外国にルーツを持つ子ども、LGBT等の問題も取り上げながら解説する。

テキスト

講義資料を適宜配布する。

参考書・参考資料等

特別支援学校学習指導要領

学生に対する評価

期末試験（70%）と授業内レポート（30%）により行う

授業科目名： 特別支援教育A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 宮木 秀雄 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標 「特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解」 ①特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解している。 ②特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解している。 ③障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解している。 ④他者との協議を通して、幼児、児童及び生徒に対する支援を考えることができる。			
授業の概要 本科目では、通常の学級にも在籍している発達障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について解説する。その上で、特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、個別の教育的ニーズに応じた支援方法について検討する。その際、事例検討等の演習を通して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識・技能についても考える。			
授業計画 第1回：障害とは 優生思想について考えることを通して「障害」とは何かについて考察する。またICFの障害モデルについても解説する。 第2回：特別支援教育の制度 特別支援学校、特別支援学級、通級による指導といった多様な学びの場について、文部科学省の統計資料や学習指導要領、法令等をもとに解説する。 第3回：特別支援教育の教育課程と個別の指導計画 様々な障害の特性や教育内容について紹介するとともに、自立活動や教科等を合わせた指導について解説する。また、個別の指導計画と個別の教育支援計画の内容や意義についても解説する。 第4回：発達障害のある子どものアセスメント 発達障害のある子どものアセスメントについて、医学、心理、教育の観点から解説する。 第5回：発達障害のある子どもの行動支援 発達障害のある子どもの行動支援について、具体的な事例を挙げながら解説する。 第6回：発達障害のある子どもの実際 発達障害のある子どもの実際の事例を取り上げながら、支援方法等について考える。 第7回：発達障害のある子どもの学習支援 発達障害のある子どもの学習支援について、具体的な事例を挙げながら解説する。 第8回：インクルーシブ教育と合理的配慮 インクルーシブ教育と合理的配慮について、文部科学省の報告等をもとに解説する。また、貧困や外国にルーツを持つ子ども、LGBT等の問題も取り上げながら解説する。			

テキスト

講義資料を適宜配布する。

参考書・参考資料等

特別支援学校学習指導要領

学生に対する評価

期末試験（70%）と授業内レポート（30%）により行う

授業科目名： 教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 生畠 亜樹子、静屋 智
			担当形態：複数
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校教育において教育課程が有する役割や機能、並びに意義を理解する 2. 教育課程編成の基本原則、並びに学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する 3. 教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する 			
授業の概要			
<p>学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。</p>			
授業計画			
<p>第1回 学校において教育課程はなぜ編成されるのかー公教育の目的を踏まえて学校の意義を踏まえた上で、学校教育で扱われる教育活動を整理する</p> <p>第2回 教育課程の類型論ー生活経験指向と学問系統指向 「経験」と「系統」、どちらを中核に置くと教育目的を達成できるか（という問いは有効か）</p> <p>第3回 生活経験指向の教育課程ー就学前教育との関連 就学前教育における教育内容の設定と配列、ならびに初等教育との関連</p> <p>第4回 コア・カリキュラムー生活経験指向の教育課程と学問系統指向の教育課程との接合 コア・カリキュラムの概要とバリエーション</p> <p>第5回 「普通教育」としての中等教育におけるカリキュラム編成 小学校（初等教育）の学校教育課程と中学校（中等教育前期）の教育課程とを比較して、教育内容と方法との同一点・類似点、相違点は何か</p> <p>第6回 高等学校の教育におけるカリキュラム編成 中等教育後期課程におけるカリキュラム編成の特色</p> <p>第7回 現在の学校教育課程編成における課題 「主体的、対話的で深い学び」成立に向けての教育内容の設定と配列</p> <p>第8回 教科・領域横断的な視点とは</p>			

<p>学校教育活動を計画・評価する視点としての「横断的学習」とは</p> <p>第9回 教科・領域横断カリキュラムの事例</p> <p>「現代的な諸課題」に関する教科等横断的な教育内容とは</p> <p>第10回 カリキュラム・マネジメント</p> <p>全校種にわたって求められている「カリキュラム・マネジメント」とは</p> <p>第11回 カリキュラム・マネジメントの実際(1)－教育目標の設定</p> <p>自分ならどのような年間目標を定めるか、その上でどのような教育活動が必要か</p> <p>第12回 カリキュラム・マネジメントの実際(2)－教育内容の選択と配列、人的・物的資源の組み合わせ</p> <p>教育活動を展開するにあたって、教材や方法としてなにを採用するか。またどのような場を設定するか。</p> <p>第13回 カリキュラム・マネジメントの実際(3)－ルーブリックの作成</p> <p>1年間を通じて学習者にも「できる」「できた」を実感し、次の学びへとつなげる評価方法とは</p> <p>第14回 カリキュラム・マネジメントの実際(4)－学習者自身の評価</p> <p>学習者自身の評価が、教育する側にとって何をもちがらすか</p> <p>第15回 カリキュラム・マネジメントの実際(5)－「社会に開かれた教育課程」とするには</p> <p>これまで考察した教育課程から何が学べるか（同時に、何を学ぶには不足しているか）</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>配布資料によってかえる。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>小学校学習指導要領（平成29年告示）、小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編、中学校学習指導要領（平成29年告示）、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編</p> <p>高等学校学習指導要領、高等学校学習指導要領解説 総則編</p> <p>その他授業中に適宜紹介する</p>
<p>学生に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業終了時の小レポート及び討議等（30%）…各時間に扱ったキーワードを説明できるか ・試験（70%）…現代社会で課題となっているトピックをテーマとした年間指導計画を分析し、教育課程編成ならびにカリキュラム評価の手法を理解しているか

授業科目名： 教育課程論（カリキュラム・マネジメントを含む。）A	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 生 畠 亜樹子、静屋 智 担当形態：複数
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 1. 学校教育において教育課程が有する役割や機能、並びに意義を理解する 2. 教育課程編成の基本原則、並びに学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する 3. 教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する			
授業の概要 学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。			
授業計画 第1回 学校において教育課程はなぜ編成されるのかー公教育の目的を踏まえて学校の意義を踏まえた上で、学校教育で扱われる教育活動を整理する 第2回 教育課程の類型論ー生活経験指向と学問系統指向 「経験」と「系統」、どちらを中核に置くと教育目的を達成できるか（という問いは有効か） 第3回 生活経験指向の教育課程ー就学前教育との関連 就学前教育における教育内容の設定と配列、ならびに初等教育との関連 第4回 コア・カリキュラムー生活経験指向の教育課程と学問系統指向の教育課程との接合 コア・カリキュラムの概要とバリエーション 第5回 「普通教育」としての中等教育におけるカリキュラム編成 小学校（初等教育）の学校教育課程と中学校（中等教育前期）の教育課程とを比較して、教育内容と方法との同一点・類似点、相違点は何か 第6回 高等学校の教育におけるカリキュラム編成 中等教育後期課程におけるカリキュラム編成の特色 第7回 現在の学校教育課程編成における課題 「主体的、対話的で深い学び」成立に向けての教育内容の設定と配列 第8回 教科・領域横断的な視点とは 学校教育活動を計画・評価する視点としての「横断的学習」とは			

第9回 教科・領域横断カリキュラムの事例

「現代的な諸課題」に関する教科等横断的な教育内容とは

第10回 カリキュラム・マネジメント

全校種にわたって求められている「カリキュラム・マネジメント」とは

第11回 カリキュラム・マネジメントの実際(1)－教育目標の設定

自分ならどのような年間目標を定めるか、その上でどのような教育活動が必要か

第12回 カリキュラム・マネジメントの実際(2)－教育内容の選択と配列、人的・物的資源の組み合わせ

教育活動を展開するにあたって、教材や方法としてなにを採用するか。またどのような場を設定するか。

第13回 カリキュラム・マネジメントの実際(3)－ルーブリックの作成

1年間を通じて学習者にも「できる」「できた」を実感し、次の学びへとつなげる評価方法とは

第14回 カリキュラム・マネジメントの実際(4)－学習者自身の評価

学習者自身の評価が、教育する側にとって何をもたらすか

第15回 カリキュラム・マネジメントの実際(5)－「社会に開かれた教育課程」とするには

これまで考察した教育課程から何が学べるか（同時に、何を学ぶには不足しているか）

定期試験

テキスト

配布資料によってかえる。

参考書・参考資料等

中学校学習指導要領（平成29年告示）、中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編、高等学校学習指導要領（平成30年告示）、高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編
その他授業中に適宜紹介する

学生に対する評価

- ・授業終了時の小レポート及び討議等（30%）…各時間に扱ったキーワードを説明できるか
- ・試験（70%）…現代社会で課題となっているトピックをテーマとした年間指導計画を分析し、教育課程編成ならびにカリキュラム評価の手法を理解しているか